

エコアクション21 環境経営レポート2023

～本当の空と豊かな自然を次世代に～



東北江南株式会社

期間：2023年5月～2024年4月



発行日 2024年7月12日
次回発行予定日 2025年7月15日

目 次

■ 環境経営方針	3
■ 会社概要	4
■ 認証・登録の対象組織・活動	5
■ 環境経営システム実施体制	6
■ 中長期環境経営目標	7
■ 環境経営目標の実績	8
■ 環境経営計画の取り組み結果と その評価、次年度の取り組み内容	9～10
■ 環境への主な取り組み	11～14
■ 環境関連法規等の遵守状況確認及び 評価の結果並び違反、訴訟等の有無	15
■ 代表者による全体の評価と見直し	16

環境経営方針

【環境理念】

当社は、智恵子抄の故郷、安達太良山のふもとに位置し、恵まれた自然環境の中で、プラスチック、ゴム等の加工製品を製造販売する事業活動を行っています。

このかけがえのない自然との共生、調和を目指し、これからも「本当の空と豊かな自然を次世代に」継承するため、自主的、積極的、そして継続的に環境保全活動を推進します。

【行動指針】

エコアクション21に準拠し構築した環境経営システムに基づき、全員参加による環境管理を推進し、地球環境の改善に取り組むことで、より効率的な生産活動につなげていきます。

(1) 資源、エネルギー等の効率的な活用

製品ごとに最適な生産方法を策定し、それに基づく生産の効率化により、水資源や電気・化石燃料等の消費による環境への負荷、資源枯渇等を認識し、省資源、省エネルギーの推進を図ります。

(2) 廃棄物発生量の抑制と再資源化の推進

廃棄物発生抑制や不要物の分別、再資源化を推進し、廃棄量の最小化と適正処理を進めることで、材料ロスを低減し低コストでの生産を目指します。

(3) 化学物質等による環境汚染の未然防止

化学物質類の購入、使用、廃棄等にあたって、製品安全データシート SDS（MSDS）を活用し、適正管理・運用等による環境汚染の未然防止に努めます。

(4) 環境関連法規等の遵守

事業活動に係る環境関連法規、条例、協定等、及び当社が受入を決めたその他の要求事項を遵守します。

(5) 全員参加による地球環境保全の実践

すべての社員が環境問題の現状や環境経営の意義、組織の環境経営方針を理解し、自ら積極的に実践するための周知を行います。また、よき企業市民の一員として、社会や地域貢献活動に努めます。

2006 年 5 月 1 日制定

2019 年 5 月 7 日改定

東北江南株式会社

代表取締役 遠藤 敏晶

会社概要

1. 事業所名及び代表者名

東北江南株式会社
代表取締役 遠藤敏晶

2. 所在地

福島県二本松市小沢字柳原 72-4

3. 設立

1992 年 5 月 25 日

4. 事業内容

工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

5. 環境保全関係の責任者及び担当者

環境管理統括責任者 遠藤敏晶
環境管理責任者 遠藤隆雄

6. 連絡先

TEL 0243-61-3491 担当：環境管理責任者 遠藤隆雄
FAX 0243-53-2770
URL <https://t-kounan.co.jp>
MAIL info@t-kounan.co.jp

7. 事業規模

資本金	1000 万円
従業員数	305 名（男 185 人・女 120 人）（2024 年 6 月）
床面積	本社工場 841 m ²
	第二工場 1013 m ²
	第三工場（クリール／食堂） 351 m ²
	第四工場 1013 m ²
	第五工場 1273 m ²
	第六工場 851 m ²
	第七工場 892 m ²
	第八工場 1014 m ²
売上高	45 億 4351 万円
生産高	442.1t

認証・登録の対象組織・活動

当社の全組織、全活動を対象とします。

登 録 組 織 名： 東北江南株式会社 本社

活 動： 工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

エコアクション21

認証登録の状況 : 認証番号 0001192
 : 認証登録日 2006年12月13日
 : 更新登録日 2022年12月13日



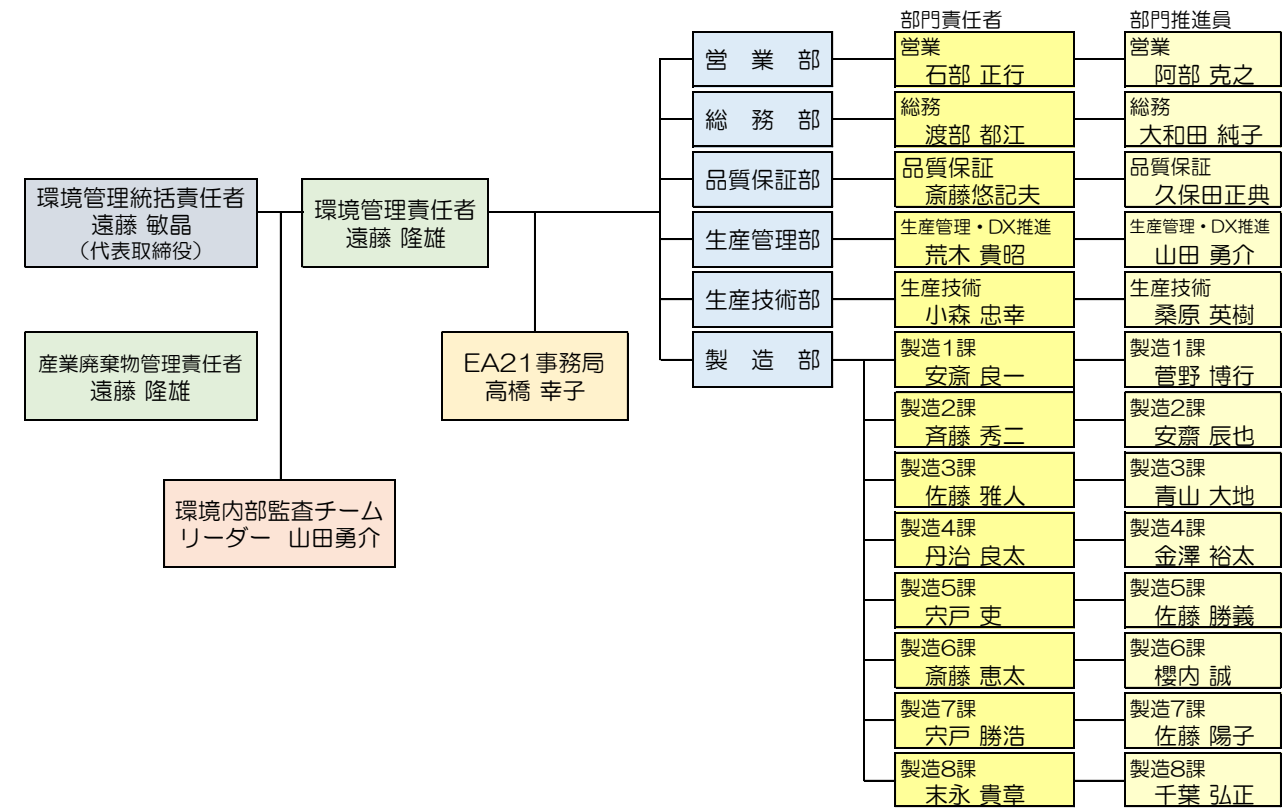
その他認証

I S O 9 0 0 1 : 登録番号 Q4853
 : 認証登録日 2015年6月26日
 : 有効期限 2027年6月26日



エコアクション21実施体制

2006年05月01日 作成
2024年03月12日 改訂



	役割・責任・権限
環境管理統括責任者 (代表取締役)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 実施体制を構築し環境管理責任者を任命 - 経営における課題とチャンスの整理 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認 - 訓練の企画・実施
EA21事務局	- 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 - 環境経営活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） - 訓練記録の作成
部門責任者	- 自部門における環境方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門推進員	部門責任者の補佐
環境内部監査チーム	- 環境に関する内部監査の計画・実施・報告 - EA21の環境活動への取組が適正に行われているかの確認 - 監査計画の立案と監査結果の報告
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

中長期環境経営目標

					年度目標			
No.	環 境 目 標		単位	2023年実績 (基準年)	2024年目標 (1%削減)	2025年目標 (2%削減)	2026年目標 (3%削減)	
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減		kg-CO2	(1,329,232)	(1,315,939)	(1,302,647)	(1,289,355)
				原単位 (kg-CO2/万円)	2.92	対基準年原単位 2.89 (▲1%減)	対基準年原単位 2.86 (▲2%減)	対基準年原単位 2.83 (▲3%減)
		内 訳	購入電力	kg-CO2	(1,226,483)	(1,214,218)	(1,201,953)	(1,189,688)
				原単位 (kg-CO2/万円)	2.69	対基準年原単位 2.66 (▲1%減)	対基準年原単位 2.63 (▲2%減)	対基準年原単位 2.60 (▲3%減)
		化石燃料	kg-CO2	(102,749)	(101,721)	(100,694)	(99,666)	
			原単位 (kg-CO2/百万円)	22.61	対基準年原単位 22.38 (▲1%減)	対基準年原単位 22.15 (▲2%減)	対基準年原単位 21.93 (▲3%減)	
		電力消費量		kWh	(2,571,244)	(2,545,531)	(2,519,819)	(2,494,106)
				原単位 (kwh/万円)	5.65	対基準年原単位 5.59 (▲1%減)	対基準年原単位 5.53 (▲2%減)	対基準年原単位 5.48 (▲3%減)
		燃 料 消 費 量	灯油	ℓ	1,144.0			
			LPG	m3	403.1			
			ガソリン	ℓ	37,826.5			
			軽油	ℓ	3,705.5			
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量		kg	(4,990)	(4,940)	(4,890)	(4,840)
				原単位 (kg/百万円)	1.09	対基準年原単 1.07 (▲1%減)	対基準年原単位 1.06 (▲2%減)	対基準年原単位 1.05 (▲3%減)
		廃棄物排出量 (廃プラ、廃油等)		kg	(268,524)	(265,838)	(263,153)	(260,468)
				原単位 (kg/百万円)	59.10	対基準年原単位 58.50(▲1%減)	対基準年原単位 57.91(▲2%減)	対基準年原単位 57.32(▲3%減)
3	水道使用量の削減	上水使用量		m3	(3,980)	(3,940)	(3,900)	(3,860)
				原単位 (m3/千万円)	8.75	対基準年原単位 8.66 (▲1%減)	対基準年原単位 8.57 (▲2%減)	対基準年原単位 8.48 (▲3%減)
4	化学物質使用量の管理	化学物質関連法令の遵守、適正管理		—	低有害化物質への転換			
5	製品への環境配慮	不良で発生する廃棄材料やエネルギー消費量を減らす		不良発生率 0.102%	不良発生率 0.101% 以下	不良発生率 0.100% 以下	不良発生率 0.099% 以下	
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進		—	工場周辺の清掃活動			
◇No.4と6は基準年度の設定は行っておりません。								
*1 電力のCO2排出係数は東北電力の2022年度の調整後排出係数0.477kg-CO2/kWhを使用								
*2 不良品率はTA、TB、TCを生産件数で割った数値								
*3 原単位は実績÷売上額で算出								
*4 評価欄：○は達成、×は未達								

環境経営目標の実績（期間：2022 年 5 月 ～ 2023 年 4 月）

No.	環 境 目 標		単位	2021年 実績 (基準年)	2023年			コメント	
					目標 (2%削減)	実績	評価		
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減	kg-CO2	(1,714,693)	(1,680,399)	(1,329,232)	○	日々の省エネ活動や太陽光発電装置の導入により大幅な電力消費量の削減によりCO2排出量も削減できた。	
			原単位 (kg-CO2/万円)	4.02	対基準年原単位 3.94 (▲2%)	対基準年原単位 2.92 (▲27%)			
		内 訳	購入電力	kg-CO2	(1,603,567)	(1,571,496)	(1,226,483)	○	各職場の空調機や機械設備の日々の節電活動や太陽光発電設備の増設、稼働により大幅に電力購入量を削減することが出来た。
			原単位 (kwh-CO2/万円)	3.76	対基準年原単位 3.68 (▲2%)	対基準年原単位 2.69 (▲28%)			
		化石燃料	kg-CO2	(111,125)	(108,902)	(102,749)	○	灯油使用暖房機の使用廃止に伴い、灯油使用量は削減できた。	
			原単位 (kg-CO2/百万円)	26.07	対基準年原単位 25.55 (▲2%)	対基準年原単位 22.61 (▲13%)			
		電力消費量	kWh	(3,508,900)	(3,438,722)	(2,571,244)	○	各職場の使用電力量が前年度比16～55%削減できた理由として、一番の要因はエアコンや設備機械の電源のON・OFFの日々の省エネ活動により削減することが出来た。	
			原単位 (kwh/万円)	8.23	対基準年原単位 8.07 (▲2%)	対基準年原単位 5.65 (▲31%)			
		燃料消費量	灯油	ℓ	970.0		1,144.0		
			LPG	m3	433.3		403.1		
			ガソリン	ℓ	47,325.5		37,826.5		
			軽油	ℓ	2,614.5		3,705.5		
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量	kg	(4,990)	(4,890)	(4,990)	×	廃プラの分別の徹底により、一部有価化し、廃プラの埋立ごみが削減できた。 産業廃棄物処理業者や廃プラの運搬回収方法の見直しを行うことで昨年度の廃棄物運搬回数を約42%削減でき、運搬の費用や化石燃料使用量、CO2排出量の削減することが出来た。	
			原単位 (kg/百万円)	1.17	対基準年原単位 1.15 (▲2%)	対基準年原単位 1.09 (▲6%)			
		廃棄物排出量 (廃プラ、廃油等)	kg	(339,441)	(332,652)	(268,524)	○	また、使用済みの機械油や化学物質の2-プロパノールの焼却処分ではなくリサイクル、再資源化することが出来た。	
			原単位 (kg/百万円)	79.65	対基準年原単位 78.06 (▲2%)	対基準年原単位 59.10 (▲25%)			
3	水道使用量の削減	上水使用量	m3	(4,230)	(4,145)	(3,980)	○	機械の切削油の切り替えて昨年度は水の使用量が増えたが、切り替えが完了し濃度管理等で維持している為、また、蛇口にシャワー等を取り付けて節水活動を行った為、目標を達成することができた。	
			原単位 (m3/千万円)	9.92	対基準年原単位 9.72 (▲2%)	対基準年原単位 8.75 (▲11%)			
4	化学物質使用量の管理	有害化学物質の使用量・保管量・使用方法を把握する		—	低有害化学物質への転換	有害化学物質の使用量削減	○	IPAやメタノールの代替品の変性アルコール使用により有害化学物質の使用量を削減することができた。引き続き、化学物質やオイルの適正な使用、管理で有害物質の使用や環境負荷低減に努める。 また、使用済みの機械油や化学物質の2-プロパノールの分別の徹底で再資源化率を高める。	
5	製品への環境配慮	不良品を減らし廃棄する材料を削減する		社内不良率0.122%	生産数に対し社内不良率を0.120%以内とする	0.05%	○	目標0.122%以下に対し、実績は0.05%で達成した。	
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進		—	工場周辺の清掃活動	工場周辺の草刈り作業（年2回）	○	工場周辺・のり面の草刈り作業を2回実施した。	

*1 電力のCO2排出係数は、東北電力の2022年度調整後排出係数（0.477kg-CO2/kWh）を使用しました。

*2 原単位は、実績÷売上額で算出しています。

*3 評価欄：○は達成、×は未達

2023 年度環境経営計画及び取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（1/2）

NO	項目	目標	実施方法	評価	次年度の取組内容	
1	CO2 排出量の削減	化石燃料使用量の削減	車両整備	○	継続して実施	営業車両等入替時、燃費の良い車両へ変更する。
			始業点検、定期自主点検の励行	○	継続して実施	
			エコドライブの徹底（急発進、急停車しない等）	○	継続して実施	
			「燃費ノート」への記録	○	継続して実施	
			法定速度の遵守	○	継続して実施	
			毎月毎の化石燃料使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
		電力消費量の削減	定期的にエアコンフィルターと室外機フィンの清掃	○	継続して実施	休止中の機械の電源 OFF の徹底、空調機の稼働時間や設定温度の徹底など、日々の省エネ活動において無駄な電力消費量を削減する。
			エアコンの温度管理の徹底（冷房 26℃、暖房 21℃）	○	継続して実施	
			機械のアイドリングを短縮、昼休みは機械の停止の運用	○	継続して実施	
			蛍光灯の LED 化	○	全工場照明 LED 化 100%達成の為、終了	
			太陽光発電を利用 新設備を全工場屋上へ設置	○	太陽光発電装置の管理徹底	
			機械設備の新規購入及び更新時には省エネルギー型機を導入・検討	○	継続して実施	
			クールビズ、ウォームビズの推奨（寒さ対策の為インナーの配布）	○	継続して実施	
			毎月毎の CO2 排出量と電力使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
		産業廃棄物の削減	古紙回収の推進（コピー用紙回収箱、ダンボール回収置場の設置）	○	継続して実施	太陽光発電設備稼働（年間約 707,000kwh 発電見込）
			裏紙使用の徹底（裏紙置場の設置）	○	継続して実施	
			商品購入時のダンボールの再利用（荷送り箱へ利用）	○	継続して実施	
			両面印刷、2 つ割り印刷を活用	○	継続して実施	
			メールでのデータ配信	○	継続して実施	
			ディスプレイによる掲示板の表示	○	段階的に実施	
			文書の電子化	○	継続して実施	
			マスキングの回収箱の設置	○	継続して実施	
2	廃棄物排出量の削減	紙使用量の削減	古紙回収の推進（コピー用紙回収箱、ダンボール回収置場の設置）	○	継続して実施	周知文書の電子化で紙の使用量を削減する。
			裏紙使用の徹底（裏紙置場の設置）	○	継続して実施	
			商品購入時のダンボールの再利用（荷送り箱へ利用）	○	継続して実施	
			両面印刷、2 つ割り印刷を活用	○	継続して実施	
			メールでのデータ配信	○	継続して実施	
			ディスプレイによる掲示板の表示	○	段階的に実施	
			文書の電子化	○	継続して実施	
3	水道使用量の削減	水道使用量の削減	マスキングの回収箱の設置	○	継続して実施	廃棄物の分別の徹底でリサイクル率を上げる
			木製パレットの持ち帰り推進	○	継続して実施	
			残材管理システムの構築（残材の再利用）	○	継続して実施	
			廃棄物分別の徹底、廃棄物の有価化	○	継続して実施	
			毎月毎の廃棄物排出量の確認と状況報告	○	継続して実施	
3	水道使用量の削減	水道使用量の削減	雨水利用の推進（雨水の貯水装置で運用）	○	継続して実施	日常の節水活動で水道使用量を削減する
			節水啓発 POP の掲示	○	継続して実施	
			トイレ用擬音装置の設置	○	継続して実施	
			製品のため洗いの励行	○	継続して実施	
			毎月毎の水使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
4	化学物質使用量の管理	化学物質関連法令の遵守、適正管理	新規購入量の把握	○	継続して実施	化学物質の適正な管理と法順守
			最新版 SDS 入手と取扱者への情報伝達の徹底	○	継続して実施	
			法改正に伴う該当物質の情報収集と管理の徹底	○	継続して実施	
5	製品への環境配慮	不良品を減らし廃棄する材料を削減する	毎月の不良発生率を集計、掲示	○	継続して実施	不良発生率 0.101%以下
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動などの推進	工場周辺の清掃活動	○	継続して実施	工場周辺の美化活動を行う

2023 年度環境経営計画及び取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（2／2）

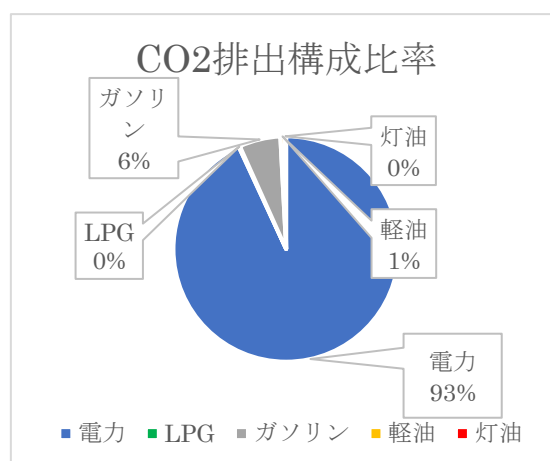
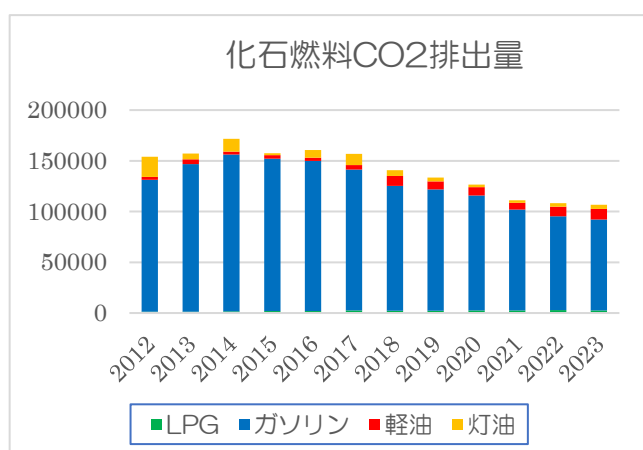
改善取組事項		結果	評価及び次年度の取り組み内容
1	二酸化炭素排出量の削減	達成	各工場での省エネ活動の取組みや太陽光発電装置の増設・稼働により、大幅に電力使用量を削減、二酸化炭素排出量も削減することができた。次年度も、各工場での積極的な省エネ活動と作業効率の改善により CO2 排出量削減に取り組んでいく。
	電力使用量の削減	達成	日々の節電活動に加え、本年度は 3 工場を除く全工場に太陽光パネルを増設して、2023 年 4 月より 5・6・8 工場、2024 年 1 月より 4・7 工場、2024 年 2 月より 1・2 工場の太陽光設備が稼働し工場内で使用される電力の一部として利用した。本年度は使用量の約 30%の発電であったが、全稼働した次年度は使用量の約 30%の 707,000kwh の発電量が見込まれ CO2 排出量削減に期待できる。
	燃料消費量の削減	達成	軽油、灯油の使用量が増えたが、ガソリン使用量を大幅に削減できた為、目標を達成することができた。次年度も車両の点検整備やエコドライブで化石燃料の削減に努めていく。
2	紙の使用量	未達成	裏紙を積極的に使用したが、目標数値を達成することができなかった。文書の電子化でメールやモニターを使用する等IT化を進めることで、紙の使用量の削減に努めていく。
	廃棄物排出量の削減	達成	PVC、PP、PE、PMMA、MC ナイロン、POM、PPS 等の廃棄物の分別を徹底し、再ペレットとして再資源化、また、工場内で出たフィルムやエアークップ等の廃プラは RPF 固形燃料として再資源化している。次年度も分別の徹底を行い再資源化に取り組んでいく。
3	水道使用量の削減	達成	製品のため洗いや蛇口にシャワーのノズルを取り付ける等で節水活動を実施してきた。引き続き節水活動を実施していく。
4	化学物質使用量の管理	達成	洗浄で使用していたメタノールや IPA を変性アルコールへ代替したことで、有害化学物質の使用量を削減することができた。引き続き化学物質の適正な管理を行い有害物質の低減化に努めていく。
5	製品への環境配慮	達成	社内不良発生率 0.120%以内の目標に対し、実績は 0.05%であった。今後も製品の品質向上に努め、お客様の要求に応えていく。また、作業効率を図り省エネ・省資源活動に努めていく。
6	社会貢献活動の推進	達成	工場外回りの周辺の草刈り実施と、年 2 回の献血バス協力、学生の工場見学などを実施し社会貢献活動を推進した。今後も継続的に実施していく。

環境への主な取り組み

■ CO2 排出量の削減

弊社の CO2 排出の構成比として 93%が電力、残りの 7%が化石燃料となっています。化石燃料の消費量は、生産量に関係なく年々減少しています。引き続き低減活動を実施して CO2 排出量削減に努めていきます。

また、CO2 排出量削減には、電気使用量の削減が有効であり、課題であると考えます。日々の節電活動に加え、機械設備やエアコンの新設や更新時に省エネタイプを導入し CO2 排出量削減に努めていきます。



■ 自然エネルギーの活用 太陽光発電設備の増設

2012年9月より第5工場、2018年3月より第6工場の屋上に太陽光発電設備を設置し稼働していましたが、その間の発電量（自家消費量）は電力消費量の0.5～0.8%でした。2023年4月より第5工場、第6工場、第8工場の屋上に、2024年1月より第4工場、第7工場、2024年2月より第1工場、第2工場の屋上に太陽光発電設備を増設、稼働し、合計707,000kwhの出力となります。2023年度の発電量は電力消費量の14%となり、全工場の太陽光発電装置が稼働する2024年度は約29%の発電量を想定しています。結果、2023年度は購入電力量の使用量削減とそれに伴うCO2排出量削減をすることができました。

【工場屋上設置の太陽光パネル写真】



【太陽光発電式外灯写真】



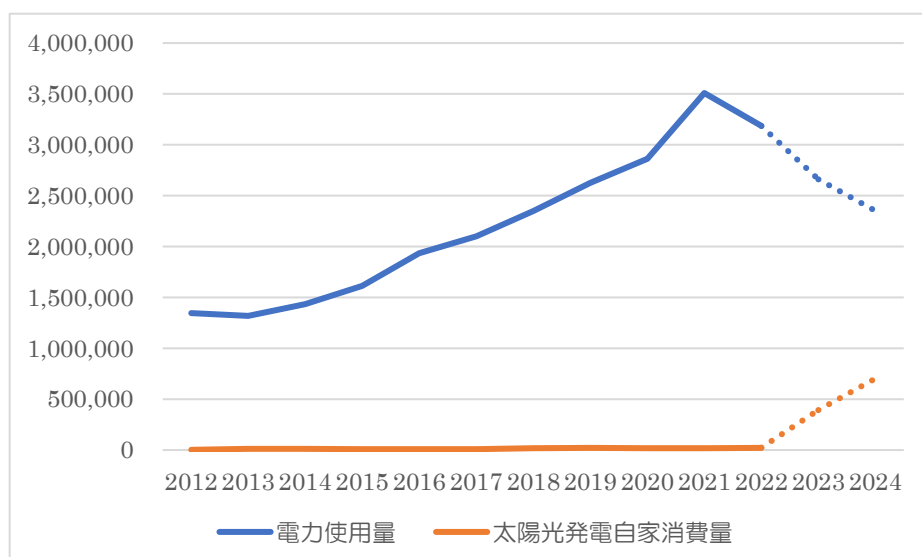
【太陽光発電装置稼働状況モニター写真】



【太陽光発電装置蓄電池写真】



【電気使用量と太陽光発電自家消費量実績と予測】



■ 全工場照明 LED 化 100%達成

事務所・全工場の蛍光灯192基をLED型に置き換えました。これにより、年間約30000kwhの電力、15tのCO₂削減を見込んでいます。従業員からは「以前より室内が明るくなった」との声を聴いており作業環境の改善を図ることができました。また、照明機器の長寿命化により蛍光灯交換の手間やコスト削減、廃棄物排出量を削減することができました



■ 廃棄物排出量の削減

弊社で排出される廃棄物のほとんどがプラスチックであり、排出量削減が課題となっています。まずは、排出される廃プラを素材別に分別を徹底し有価物として再資源化し、また、生産工程の見直しや不良品を出さない等、廃棄物排出量削減に努めています。

■ 廃プラの有価化

材料加工後の残材のうち材料として再利用が不可のものや、機械加工で排出された切子等を素材別に分別を行い、廃棄物の再資源化に力を入れている産業廃棄物業者に引き取りを依頼することで、再生ペレットとしてプラスチックの再資源化、または、材料等の梱包材のストレッチフィルムや緩衝材等の廃プラは木くずや繊維と共に破砕、圧縮され固形燃料RPFとしての製紙会社様等の燃料助燃材として再資源化され、廃棄物排出量を削減しています。今後も更なる分別を行い、廃棄物排出量の削減に努めていきます。

【廃プラ分別置場写真】



【再生ペレット写真】



【ストレッチフィルム等廃プラ】



【固形燃料RPF】



■ 環境教育

新入社員・中途採用者を対象に環境への取り組みについて教育を行いました。また、環境関係法律上、有資格保持者が要求される業務従事者に対し専門教育の実施を行いました。

【新入社員環境教育】



毎年、秋に避難訓練を実施し、火災時の社員一人一人の対応の仕方を訓練し見直しています。また、弊社の環境に著しく影響を及ぼす事故として廃油等の漏洩事故を想定しています。その対応訓練を実施し見直しを行っております。

【避難訓練の様子】



【緊急事態想定訓練の様子】



■ 社会貢献活動

工場外回りの周辺の清掃実施と、年2回の献血バス協力、学生の工場見学やインターシップの受け入れを行いました。工場周辺の草刈りを実施し工業団地の美化活動を推進し、学生の工場見学やインターシップを受け入れ、モノづくりや弊社の環境活動の説明を行いました。

【工場外回り草刈り作業風景】



環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、問題はありませんでした。また、これらの法規制等に関して、関係当局からの違反、指摘及び地域住民からの苦情や訴訟などありませんでした。

主な環境関連法規等

適用される法規制	遵守すべき要求事項	評価
浄化槽法	・年 4 回の保守点検（保守点検登録業者） ・年 1 回の清掃（浄化槽清掃業者委託） ・年 1 回の定期検査（指定検査機関）	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産廃収集運搬・処理業者の許可確認、書面締結 ・産業廃棄物の保管管理（飛散・浸透防止・囲い設置） ・保管場所の表示（60×60 cm） ・産業廃棄物管理票の交付と 5 年間保存 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出（福島県）	遵守
フロン排出抑制法	・3 か月に 1 回エアコンとコンプレッサーエアドライヤー簡易点検実施、結果の記録と保存	遵守
消防法	・消火設備点検 ・危険物の貯蔵と取扱い（指定数量 1/5 未満の貯蔵） ・危険物の取扱い（有資格者、無資格者は有資格者立会いの元取り扱う）	遵守
家電リサイクル法	・家電の長期間使用、使用後の廃棄物収集運搬業者への適正な引渡し、料金の支払い	遵守
使用済自動車の再資源化等に関する法律	・長期間の使用、使用済自動車の再資源化	遵守
福島県化学物質適正管理指針	・第一種指定化学物質及び管理化学物質の確認 ・SDS の取得と社員への周知、管理の徹底 ・当該化学物質の使用量を記録、5 年間保管	遵守
福島県化学物質適正管理指針実施要項	・化学物質使用量等総括表（様式第 2 号）提出	遵守
福島県産業廃棄物の処理の適正化に関する条例	・産業廃棄物管理責任者の任命 ・産業廃棄物の処理について帳簿を備え、5 年間保管	遵守

代表者による全体の評価と見直し

【実施日】2024年6月30日

太陽光パネルが一部を除いた全ての工場に設置され、また全ての照明がLEDに置き換わるなど順調に環境の対応が行われた。実際に数値や価格に成果が表れていると、これまでの活動におおむね問題がないと感じられる。今後は産廃、特に機械加工で出た切り子の有効活用を行う事で更なる環境活動につなげていきたい。